

**製品名: NOR-1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab14801**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	65kDa

**抗原情報**

遺伝子名	NR4A3 NR4A3; CHN; CSMF; MINOR; NOR1; TEC; Nuclear receptor subfamily 4 group A member 3;
別名	Mitogen-induced nuclear orphan receptor; Neuron-derived orphan receptor 1; Nuclear hormone receptor NOR-1
遺伝子 ID	8013.0
SwissProt ID	Q92570
免疫原	抗血清はヒト NR4A3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 387-436

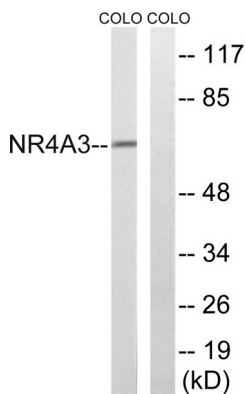
**背景**

この遺伝子は、ステロイド-甲状腺ホルモン-レチノイド受容体スーパーファミリーのメンバーをコードします。コードされているタンパク質は転写活性化因子として作用する可能性があります。このタンパク質は、NGFI-B 応答配列 (NBRE) に効率的に結合します。骨外性粘液性軟骨肉腫 (EMC) の3つの異なるバージョンは、この遺伝子と他の遺伝子間の相互転座の結果として生じます。転座切断点は、核受容体サブファミリー4、グループA、メンバー3 (9番染色体上) およびユーイング肉腫切断点領域1 (22番染色体上)、RNAポリメラーゼII、TATAボックス結合タンパク質関連因子68-KD (17番染色体上)、または転写因子12 (15番染色体上) のいずれかと関連しています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つかっています。 [RefSeq 提供、2010年3月]、疾患: NR4A3に関連する染色体異常は、骨外性粘液性軟骨肉腫 (EMC) の原因となる。転座 t(9;17)(q22;q11)は TAF2N と関連している。、疾患: NR4A3に関連する染色体異常は、ユーイング肉腫[MIM:133450]の原因となる。転座 t(9;22)(q22-31;q11-12)は EWS と関連している。、機能: B1A 応答配列に結合する。、類似性: 核ホルモン受容体ファミリーに属する。、類似性: 核ホルモン受容体ファミリーに属する。 NR4 サブファミリー。、類似性: 核内受容体 DNA 結合ドメインを1つ含む。、組織特異性: 骨格筋でアイソフォーム  $\alpha$  の発現が高い。骨格筋でアイソフォーム  $\beta$  の発現が高い一方、胎児脳と胎盤では発現が低い。、

## 研究分野

神経科学、神経プロセス、神経発生、エピジェネティクスと核シグナル伝達、核シグナル伝達経路、核受容体、孤児核受容体

## 画像データ



NR4A3 抗体を用いた COLO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。